

次号予告

特集 グループウェアとワークフロー

- グループウェアの展望……………飯島淳一（東京工業大学），堀内正博（青山学院大学）
プライスウォーターにおけるグループウェアの活用……………佐藤慎一（プライスウォーターハウス）
行政におけるグループウェア……………松井啓之（東京工業大学）
ワークフローによる業務改善……………財部忠夫（下関市立大学）
ワークフロー管理システムの有効性について……………堀内正博（青山学院大学），飯島淳一（東京工業大学）
教養講座 多様化時代の数理計画法 第4回 可能性計画法……………乾口雅弘（広島大学）

編集後記●「あっ，またやっちゃった。」家中のすべての音と光が一瞬にして消える。暗闇の中で懐中電灯を探し当て，ブレーカを上げに行く。冷暖房をほとんど電力に頼っている我が家では，さほど珍しい事件ではない。特に真夏と真冬では日常茶飯事である。我が家の契約電流は40アンペア，2台のエアコンと照明，そして電子レンジを使用中に冷蔵庫でも作動すれば，簡単にオーバーしてしまう量である。妻に「契約電流を増やそうか。」と言うと，基本料金が高額になるうえに，たくさん電気を使うと単位使用量当たりの電力量料金までが割高になると反対されてしまった●今月の特集は「ピーク電力の予測」である。当日あるいは翌日の最大電力需要を気象データなどから予測するためのいくつかの手法が紹介されている。電力を何らかのエネルギーに変換して，貯蔵するシステムの研究開発もなされているようではあるが，大量のエネルギーを効率的に蓄えるにはまだまだ技術的課題も多く，電力

の需要予測の役割は大きい●各論文を拝見すると，従来の統計的手法に替わって，各要因と需要との非線形な関係を学習できるニューラルネットワークを適用した手法が主流であるようだ。これらの手法では，学習データの不足を補うために過年度のデータを学習した後に予測日至近のデータを学習する2段階学習法を用いる，季節の変わり目には前後の季節のニューラルネットワークをファジィ推論によって統合したものを適用する，また，ニューラルネットワークの最適なパラメータ数を情報量基準に基づいて決定する，等々，少しでも高精度の予測を実現しようという工夫がなされているのを窺い知ることができる●薄給が故の我が家の電気代節約も，最高気温などによる電力需要の変動の抑制にほんの僅かながら貢献しているのかもしれない，と妙に納得して，‘0:00’が点滅するタイマーの時刻を一つずつ合わせていく夏の夜である。

（山下英明）

オペレーションズ・リサーチ 編集委員会

- 委員長** 逆瀬川浩孝(早稲田大学) **副委員長** 山上伸(東京ガス株)，山下勝比拉(株東芝)，大山達雄(埼玉大学)
委員 伊藤裕康(株富士通研究所)，上田徹(成蹊大学)，葛山康典(早稲田大学)，國澤直樹(東京電力株)，栗田治(慶応義塾大学)，佐賀井重雄(財電力中央研究所)，外嶋成留(住友金属工業株)，田口東(中央大学)，田中宏和(さくら総合研究所)，中里宗敬(青山学院大学)，西尾チヅル(筑波大学)，水野眞治(統計数理研究所)，矢島安敏(東京工業大学)，山下英明(駒澤大学)

本誌に掲載された記事についての著作権は，社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

オペレーションズ・リサーチ

平成8年9月号 第41巻 第9号 通巻429号

代表者 刀根 薫

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会
東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル
電話 03-3815-3351(代) FAX 03-3815-3352 〒113

編集人 逆瀬川 浩孝

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151

●本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ 定価 950円(本体922円，郵送料含)年間予約購読料10,800円(税・郵送料含)

●本誌への広告お申し込みは明報社(3546-1337)，日経弘報社(3563-2241)へ